


令和4年度 第31回全国女性建築士連絡協議会（東京）分科会概要一覧

分科会名称	コメンテーター	概要
A分科会 「オンラインセミナー 役立つ運営ノウハウ 伝授します！」	村越のぞみ (福島県建築士会) 東 英輝 (岩手県建築士会)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年の全建女はオンラインで開催されました。他県の建築士会のセミナーや大会を自宅にいながら手軽に聞けるのは、働きながら育児や家事、介護を両立させている私達には本当に素晴らしいツールです。そろそろ、自分が所属する士会でもオンラインでセミナーや大会を開催したい、でも何から始めればいいのか？やり始めたけどもっと便利な機能が知りたい！運営側の負担を減らしたい！そんな不安や悩みを今回は、過去に様々なオンラインイベントを開催されてきた 達人に運営ノウハウを伝授して頂き、皆さまの今後の活動にお役立て頂ければと思います。</p> <p>質疑を先に受け付けますので、こちらのアドレスまでメールをお願いいたします。 tomidokoro@hkcorp.jp</p>
B分科会 「空き家対策の活動」 ／民泊×観光地 の取り組み	酒井美代子 (福島県建築士会)	<p>私が住んでいる裏磐梯は、オールシーズン観光客が訪れる福島県を代表する観光地です。両親が亡くなって空き家になり持ち家と合わせて3軒。その利活用ができないかと考えていた所、2018年6月に民泊新法が施工されました。それまでグレー部分が多かった民泊が申請から運営まで大きく変わったのをきっかけに検討を重ね、民泊事業をはじめの事になりました。「民泊セカンドハウス」オープンは2019年11月2日(土)。新型コロナの影響を受けながらも、今では、予約が取りにくい宿にまで成長した取り組みを紹介します。</p> <p>また全国に広がる空き家の活用等について、参加の皆さんと意見交換を行いたいと思います。</p>
C分科会 「福祉のまちづくり」	田野 恵 (千葉県建築士会)	<p>「超高齢化社会」となり、社会構造や体制が大きな分岐点を迎える2025年も間近。高齢者が自立生活の支援のもとで可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最期まで続けるために、医療・介護・予防・福祉・住まいの5つの要素で支えるシステムが推進されている昨今。住まいの専門家の建築士の関わりは少ない。そこで3年前より「福祉まちづくり小委員会」と称し、「建築士のための介護基礎講座」を開催。医療・介護・予防・福祉それぞれの職務や専門用語を理解し、対等に議論できる状況を作りたいと考えています。</p>

<p>D分科会 「たてものを使い繋ぐために」</p>	<p>本岡美由希 乾陽子 (福井県建築士会)</p>	<p>文化財的評価や最初の用途に拘わらず、改修・補修・補強を適切に施すことで、たてものの寿命を延ばし、使いながら次世代へ繋げることが出来たら・・・そんな想いを抱いて仕事をしている方も多いはず。耐震・温熱等を改善し快適に住み続けられる住まいとした事例や、空き家を改修して店舗等とした事例を、住宅医・ヘリテージマネージャーの各視点からご紹介します。更にヘリテージ協議会による「残す」と「使う」を繋ぐサイト構築や情報発信から、身近な建物への気づきの広がり期待する想いもお話します。皆さまの情報共有に繋がりますよう。</p>
<p>E分科会 「景観まちづくりと建築士・京都景観フォーラムでの活動」</p>	<p>内藤 郁子 (京都府建築士会)</p>	<p>京都市で2007年に「新景観政策」が施行された翌年、京都市が設置した「未来まちづくり100人委員会」から「NPO京都景観フォーラム」を立ち上げました。「市民が自主的に景観まちづくりを進めることができる社会の実現を目指し、「景観まちづくりに関する専門家を育成し、「そのネットワークで地域をサポートする。」ということをミッションに掲げ、「京都景観エリマネジメント講座」を実施し、さまざまな地域のお手伝いをしてきました。そもそも、私たち建築士はまちを創っていますが、まちを壊しているのも建築士ではないか？という自省が私の出発点です。景観をまちの共有資産として捉えることが、街並みの形成とともに、コミュニティの構築にも繋がるのではないかと考えていますが、建築士としての役割について皆さんと考えたいと思います。</p> <p>京都市景観整備機構 NPO 京都景観フォーラム https://kyotokeikan.org/</p>
<p>F分科会 「愛媛の古建築を訪ねての本ができるまで」</p>	<p>文化財・まちづくり委員会 (愛媛県建築士会)</p>	<p>(公社)愛媛県建築士会「文化財・まちづくり委員会」による、33年間にわたる古建築調査の記録を集めた本が2018年に出版されました。なかでも未指定文化財に関しては、現在では貴重な記録も多く、当初から古建築に対する意識の高さをうかがい知ることができます。愛媛県には大学に建築系の学部もなく、行政からの特別なバックアップもない環境で、なぜそのような調査を行うことができたのでしょうか。文化財に対する建築士会の歴史、それが本になるまでのプロジェクト……。調査時のドラマや発見も交えて楽しくお伝えできればと思います。本の紹介ページ [書籍販売] 「愛媛の古建築を訪ねて」 好評販売中 (ehime-shikai.com)</p> 

<p>G分科会 「古きものを活かす」</p>	<p>内田 恭代 (宮崎県建築士会)</p>	<p>平成29年度(東京大会)の分科会にて「環境共生住宅」と題し、^{ああむじょう}嗚呼六帖プロジェクト(伝統工法を支える家づくり)を報告いただいた内田さんの第二弾! 今回お届けするのは、コンバージョンのお話です。</p> <p>市街地のはずれに位置する木造二階建ての住宅。築60年を迎えるその住宅は空き家となり、興味のない方からすれば取り壊されるものと思われたことでしょう。しかし、内田さんの手によりライダーハウスへと変貌を遂げました。随所に込められた「古きものを活かす」知恵をご紹介します。古き良きものが持つ可能性について学びを深めたいと思います。</p>
----------------------------	----------------------------	--